零細鉱業の社会的役割の検討

タンザニアの鉱山コミュニティにおける零細鉱業の社会セーフティネット

秋田大学　藍澤　淑雄

1　目的

この報告の目的は，タンザニアにおける零細鉱業のインフォーマルな社会セーフティネットの機能について考察することである．零細鉱業とは，鉱物資源国において鉱物資源を採取する小規模で労働集約的な社会経済活動である．零細鉱業は貧困層による活動といわれ（Barry, 1996 など），開発途上の鉱物資源国農村地域における生計多様化の重要な生計手段となっていることから，地域の経済活動としての重要性が議論されている（Hilson and McQuiken, 2014 など）．しかし零細鉱業は農村住民に経済的利益をもたらす機会として捉えられることが多い一方で，社会的利益をもたらす機会として検討されることは少ない．そこで本報告では零細鉱業を経済的利益のみならず社会的利益ももたらすものと捉えながら，特に零細鉱業によるセーフティネットの役割について検討する．

2　方法

上記目的のもと，本研究ではタンザニアにおけるゲイタ金鉱山地域を対象として社会調査を実施した．調査サンプルは層化多段抽出法によりを収集した．タンザニア国エネルギー・鉱業省のゲイタ鉱業地区事務所の情報を基に金鉱石の生産を行っている 4 つの金採鉱地区を選定し，ロイヤリティの納付零細金鉱業者リストから確率抽出によりサンプルを選定した．調査では，サンプルとして選定した対象者に，事前に準備した質問票をもとに構造化インタビューを行い，同時に非構造化インタビューを行った．その上で収集したデータを整理しノンパラメトリック法による分析を行った．

3　結果

分析の結果，タンザニアのゲイタ金鉱山地域における零細金鉱業者は経済的利益のみならずセーフティネットとしての社会的利益も期待しながら零細金鉱業に従事していることがわかった．実際に生存維持などのためのローンへのアクセスについて分析したところ，比較的容易に借入が可能な小規模金融からも借入できない状況においてでも，零細鉱業者は採鉱サイトの他の関係者から借入が可能であることがわかった．そのうえでセーフティネットに対する期待にはどのような要因が関係しているかについて検討した．その結果，金鉱石を採取するという共通目標のもと共同活動する採鉱関係者のチーム意識が，このセーフティネットへの期待と関係していることが確認できた．そしてこのセーフティネットへの期待とチーム意識については，特に金を掘り当てていない（収入の低い）採鉱サイトのほうに強い関係性がみられることもわかった．

4　結論

以上から，タンザニアのゲイタ金鉱山地域においては，零細鉱業者は，経済的利益だけではなく社会的利益をもたらすセーフティーネットとしての機能も果たしていることが明らかになった．特に，収入の低い零細鉱業者にとって零細鉱業のセーフティーネットの機能は重要であると考えられる．

文献

Barry M. (Ed.) (1996). *Regularizing Informal Mining: A Summary of the Proceedings of the International Roundtable on Artisanal Mining Organized by the World Bank, Washington, D. C., May 17-19. 1995.* Industry and Energy Department Occasional Paper No. 6.

Hilson, G. & McQuilken, J. (2014). Four Decades of Support for Artisanal and Small-scale Mining in Sub-Sahara Africa: A Critical Review. *The Extractive Industries and Society*. 1: 104-118.